

久慈市山形町の UMA「ガタゴン」を通じた地域おこしのためのデザイン案の検討

岩手大学 教育学部 芸術文化課程 美術・デザインコース 映像メディア研究室学生チーム
人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）ヴィジュアルデザイン研究室学生チーム
（発表者：小林香純、寺田ゆりか）

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

序

1992 年 6 月に久慈市山形町で不思議な足跡が発見され、いわゆる「UMA」（ユーマ）とも呼ばれる未確認生物とされている。これは後に「ガタゴン」（図 1）の愛称で、地域の人々に親しまれるに至った。現在、山形町には「ガタゴン」に由来する「ガタゴンまつり」や「ガタゴンのたまご」があり、また、道の駅白樺の里やまがたに併設されている商業施設「カントリーマーケットビッグフット」など、住民の生活に溶け込んだ存在である。

しかしながら、これまでガタゴンの姿を目撃した者はおらず、またイメージを具現化するような取り組みが行われてこなかったため、お土産品へのパッケージ展開等、対外的に地域を PR する上での統一的な素材が欠如している状況である。

そこで、これまで明らかとなっている「ガタゴンのたまご」と「ガタゴンの足跡」からガタゴンの姿を具現化し、キャラクター化するためのデザイン案を検討することで、地域から生まれる商品のブランディングを図るための一助とする方向での依頼を受けた。

山形町から未確認生物!!

ガタゴン

☆正体不明の未確認生物☆
👉ガタゴンの卵👈



久慈市山形町(旧 山形村)の繁地区・茅森さんの畑で平成4年6月に発見されました。縦22センチ・幅15センチ、前に4本・後ろ向きに1本の指があるという奇妙な足跡が始まりでした。近隣で見られる動物のものとは全く異なった足型で、山形の「形」もとって「ガタゴン」と名づけられました。正体不明、謎の未確認生物です。

道の駅白樺の里やまがたにて
販売中!!



ガタゴンストラップ ガタゴンTシャツ



発見された
ガタゴンの足跡

発行元:久慈広域観光協議会 TEL:0194-53-5756 <http://www.kuji-tourism.jp/> 配布:道の駅白樺の里やまがた

図 1：道の駅白樺の里やまがたにて配布されているチラシ（久慈広域観光協議会）

I. 本研究課題について

(実施計画・方法)

本研究においては、当該研究室の学生を中心に活動グループを形成し、現地調査を行うなどして久慈市山形町の現状を把握することから開始する。UMA「ガタゴン」の解明については困難と思われるため、現在、視覚的なものとして存在する「ガタゴンのたまご」と「ガタゴンの足跡」から発想を展開することになる。

まず問題となるのは、この「たまご」からは「恐竜」をイメージさせるが、「ビッグフット」という言葉は「猿人」をイメージさせるという不一致である。これは、キャラクター化においては難航する原因となりえる。キャラクター化そのものが可能であるか、あるいは何か別の解決策があるかについて検討を重ね、最終的にはイラストや商品のデザイン的な解答を提案することを当初は予定した。さらに、商品開発の発想的な提案として、岩手県を設置したデジタル工作体験スペース「ファブテラスいわて」を活用するなどして、アクリル板や合板を加工したり、3D プリンターを使って成型したりなども可能性としては視野に入れていた。

○合同会議

- ・平成 30 年 5 月 22 日（火）岩手大学総合教育研究棟（教育）サイバースタジオ 101
- ・平成 30 年 7 月 24 日（火）同、サイバースタジオ 101
- ・平成 30 年 10 月 23 日（火）同、サイバースタジオ 101
- ・平成 30 年 12 月 18 日（火）盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）1 階フロア

学生グループは、本研究課題について岩手大学（三陸復興・地域創生推進機構 地域創生部門）共同研究員の大内田泰之さん、久慈市（山形総合支所 産業建設課）の志水彩子さん（後期には志水さんに代わり、係長の谷地彰さんと臨時職員の古屋敷みゆきさん）とともに実施計画や方法などについて検討した。（写真 1・2）



写真 1：岩手大学における合同会議の様子（2018 年 7 月 24 日）



写真 2：岩手大学における合同会議の様子（2018 年 12 月 18 日）

○実施計画

協議の結果として、主に以下のようなことが計画された。

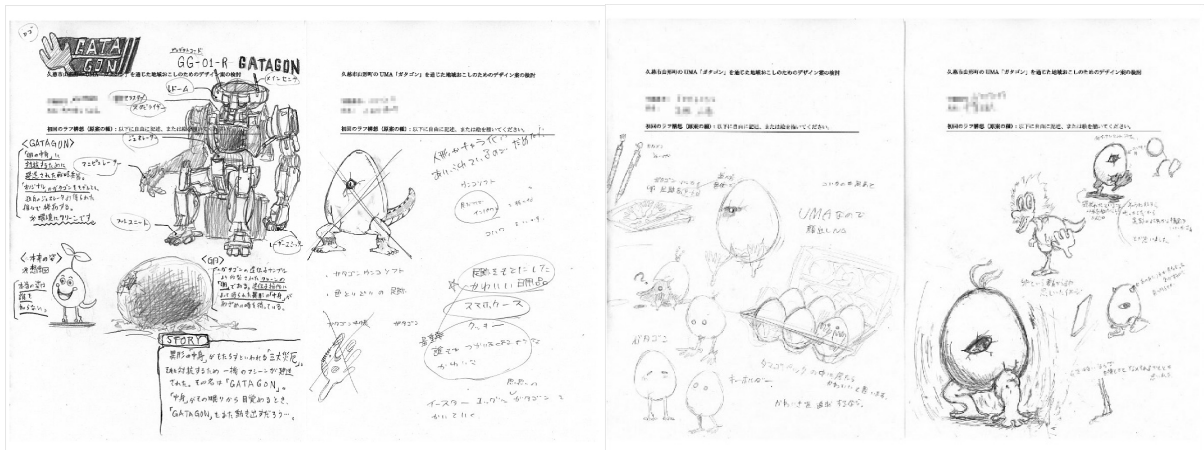
- ・「ガタゴン」をどのように捉え、展開していくかの検討
- ・山形町の視察と「ガタゴンまつり」(8/26)への参加
- ・ガタゴンを広めるための漫画制作
- ・広報活動としてのイベントや関連商品の提案

II. 今年度における研究活動の経過について

（結果・考察）

○ガタゴン原案（自由な発想の第一段階）

2018 年 5 月 22 日の最初の合同会議の際に、学生グループはガタゴンの話を聞いて、キャラクターや商品開発の原案を自由に発想した。デザインの素材となるイメージは、現在のところ、「たまご」と「足跡」しかない。ここからどのように展開できるかが課題となる。



平成 30 年度地域課題解決プログラム

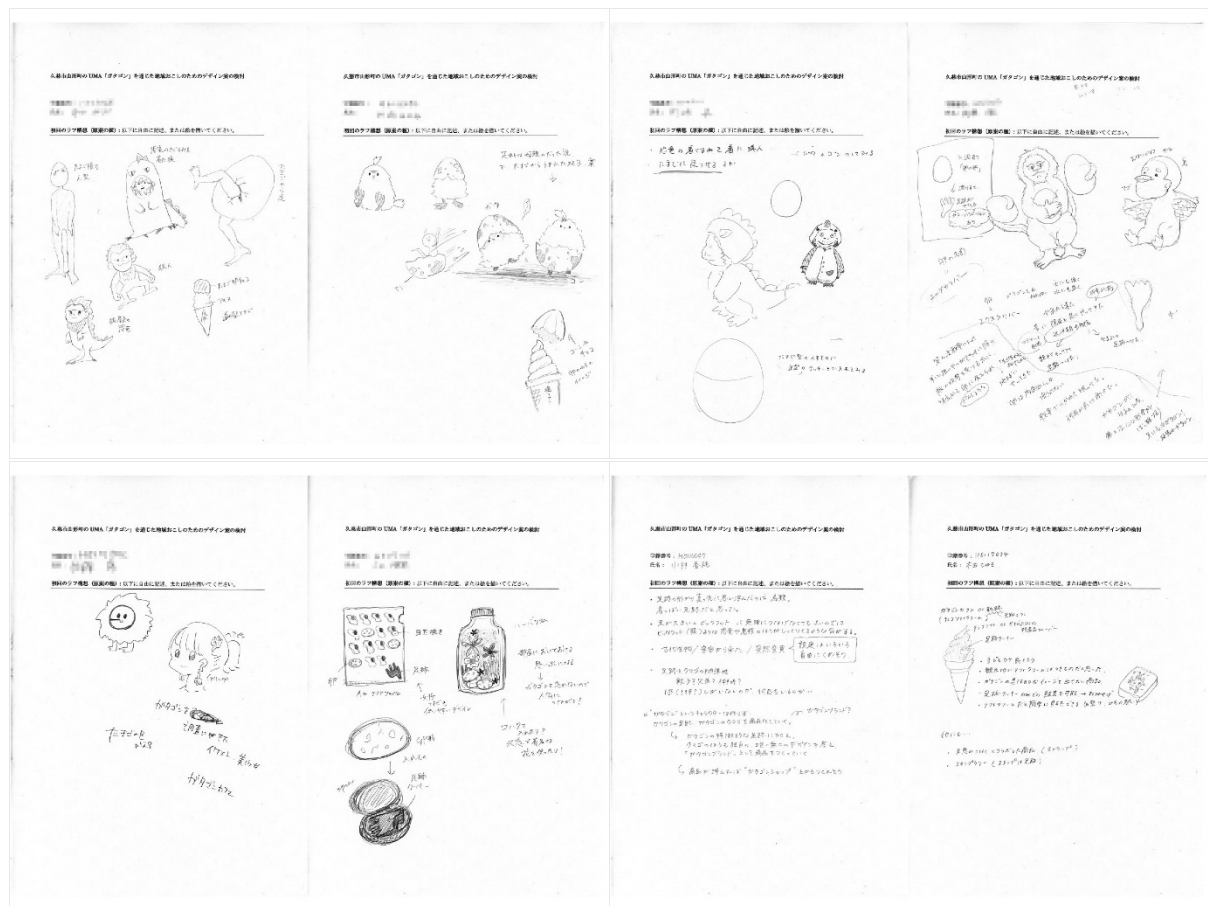


図 1：学生グループによる「ガタゴン」キャラクター・商品開発の原案（抜粋）

ガタゴンをキャラクター化するためのデザイン案を作ることとは、これまで「謎」とされてきたガタゴンの存在を解明することなく、一方的な提案となってしまう恐れがある。そのような押し付けのキャラクターを提案しても地元の人に受け入れられず、発信をいくら試みても成果が得られないものとなる危険性がある。

そこで、ガタゴンのキャラクターについては、これまで通り、「謎」を引き継いだまま、その魅力を発信することを検討し、例えば、「ガタゴンとはどのような生き物なのか」などの問いかけから、子どもたちにイラストを描いてもらうなどのワークショップやコンテストなどのイベントを仕掛けていく方向性が良いのではないかという考えも生じてきた。

○久慈市山形町現地視察（ガタゴンまつり参加）

- ・平成 30 年 8 月 26 日（日）
- ・参加学生：小林香純、寺田ゆりか、間峠早（人文社会科学部人間文化課程 3 年生）
- ・交通手段：JR バス東北、盛岡－久慈（白樺号）＜盛岡大学前・岩手町・葛巻町経由＞

山形町川井地区ガタゴン広場や商店街で開催される「ガタゴンまつり」は、1992 年の UMA ガタゴンの足跡発見事件をルーツに持つユニークなまつりである。この地方に古くから伝承されてきた「なにやどやら流し踊り」が繰り広げられ、ガタゴンの卵を「ご神体」として山車も登場する。（図 2）

平成 30 年度地域課題解決プログラム



図 2 : 「ガタゴンまつり」のチラシ (2018 年)

学生グループ（参加者：小林香純、寺田ゆりか、間峠早）は、久慈市の大内田泰之さん、志水彩子さんにお世話になり、ガタゴンまつりにも参加して地元の方々と交流し、山形町を視察する機会を得た。（写真 3）





写真 3：学生グループの参加するしたガタゴンまつりの様子（2018 年 8 月 26 日）

学生グループは、久慈市役所の神輿をいっしょに担ぐという機会を得てガタゴンまつりを体験するとともに、道の駅白樺の里やまがたにて、地域の情報や販売されているグッズなどを調査した。建物の前に設置されているガタゴンの大きなたまごは、道の駅のランドマークとなっており、そのイメージがすでに定着している。（写真 4）



写真 4：ガタゴンの大きなたまご（道の駅白樺の里やまがた）

平成 30 年度地域課題解決プログラム

また、大きなたまごのそばにはガタゴンの「大きな」足跡も再現（写真 5）されている。再現されているといっても、発見された当時の『岩手日報』（1992 年 12 月 9 日）の記事には「クマでも猿でもない不思議な足跡」が「長さ約二十二センチ、最大幅が約十五センチ」とあり、指の部分に至っては「数センチ」と記載されているため、これがいかに誇張されたものかが分かり、面白いものである。

逆に、ガタゴンの足跡は実は小さなものだったことに驚くくらいである。これがいつの間にか、「恐竜の生き残り」のような存在になってしまったのには、1990 年に出版されたマイケル・クライトン（Michael Crichton, 1942-2008）の小説を原作として 1993 年に製作された映画『ジュラシック・パーク』（Jurassic Park）の大ヒットによって、恐竜の血液を吸った蚊が閉じ込められている琥珀から恐竜の DNA を取り出し、現代に蘇らせるという物語が琥珀の産地として有名な久慈のイメージにつながりやすかったからかもしれない。

この方向でのガタゴンのイメージ化となると、必然的に巨大恐竜を想像させるものになる。



写真 5：再現された(?)ガタゴンの大きな足跡（道の駅白樺の里やまがた）

平成 30 年度地域課題解決プログラム

一方で、道の駅のふるさと物産センター「ガタゴンサライ」入り口横に置いてある田楽や串もちを焼く台には旧山形村時代に描かれた「ガタゴンちゃん」のイメージ（写真 6）が残っている。このキャラクターは小さくてかわいらしく、毛も生えており、足跡発見当時に報道されたサイズ感で発想したものと判断できる。顔の部分には、現在は廃止された村章がアレンジされており、「村おこし」の一環としてキャラクター化を始めようとしていたことがうかがわれる。

ガタゴンサライでは、足跡の形を「キービジュアル」として、Tシャツやキーホルダーなどガタゴン関連グッズも販売されている。（写真 7）



写真 6 : 「ガタゴンちゃん」の絵（ふるさと物産センター「ガタゴンサライ」）



写真 7 : ガタゴンのキーホルダー（ふるさと物産センター「ガタゴンサライ」）

○キーホルダー「ガタゴンストラップを作ろう！」

学生グループによるガタゴンのイメージを展開した商品化のウォーミングアップとして、本研究の指導教員（本村健太）によって課題が設定（図 3）され、人文社会科学部人間文化課程（芸術文化専修プログラム）における今年度の開講科目「造形実習（視覚文化）D」のなかで制作に取り組んだ。この課題はレーザー加工機を使って切り出すもの（写真 8）であり、商品イメージを手に取って確認できる。ガタゴンのたまごと足跡のイメージだけでいかにデザインするかの特レーニングとなった。（ガタゴンイラストコンテストの賞品として展開可能）



図 3：「ガタゴンストラップを作ろう！」の Illustrator 課題設定



写真 8：アクリル板を切り出した学生作品の結果（レーザー加工機使用）

○ガタゴン 4 コマ漫画「いわてマンガ大賞」で優秀賞、『広報くじ』に掲載

学生グループの一人が本研究課題に関連して 4 コマ漫画を制作した。この作品「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）は、第 8 回いわてマンガ大賞の 1～4 コマ部門（一般の部）で優秀賞を受賞し、2018 年 12 月 15 日（土）にイオンモール盛岡イーハトーブ広場で開催された「第 8 回いわてマンガ大賞及び第 3 回マンガ郷いわて特別賞表彰式」にて表彰された。この 4 コマ漫画は、『広報くじ』に掲載されることになった。

- ・ 2 月 1 日号 4 作品
- ・ 3 月 1 日号 2 作品
- ・ 4 月 1 日号 2 作品
- ・ 5 月 1 日号 4 作品
- ・ 6 月 1 日号 4 作品

[参照]『広報くじ』平成 30 年度（平成 30 年 10 月 1 日号～平成 31 年 3 月 15 日号）：

https://www.city.kuji.iwate.jp/matizukurika/koho_g/koho/h30_kuzikouhou_301001_310315.html

図 4 は、この漫画 4 作品が『広報くじ』（平成 31 年 2 月 1 日号）に掲載されている誌面の様子である。

[参照]『広報くじ』（平成 31 年 2 月 1 日号）16-17 ページ：

<http://www.city.kuji.iwate.jp/data/open/cnt/3/7467/1/190201p16-17.pdf>



図 4：「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）

平成 30 年度地域課題解決プログラム

○学生グループの検討と提案（今年度中に限らない今後の活動の可能性として）

2018 年 10 月の時点で学生グループ内で話し合い、今後の方向性としてまとめたのが以下の内容である。（とりまとめ：寺田ゆりか）

- ・ガタゴンは無確認であることを考慮し、
→ イラストコンテストを実施して、人々が考えるガタゴンをかたちにする
- ・しかし、ガタゴンをある程度キャラクター化するとすれば、
→ いわてマンガ大賞 4 コマ部門にてガタゴンをキャラクター化し作品を作成
（久慈市の広報誌に定期連載など活用もできる。）
→ 商品につけるシールやパッケージデザイン
（道の駅のアイス、クッキーなどの商品）
→ Twitter 等の SNS で情報発信
（上記のコンテストを絡めることもできる。）

そして、本件は共同研究員の大内田泰之さんとメールで協議し、2018 年 11 月の時点では以下のような内容が今後の展開の可能性として考えられた。

- ・ガタゴンは固定のキャラにしない。
→ 年に一回イラストコンテストを実施することでキャラクターが固定されるのを防ぐ。
→ 選ばれたキャラのシールなど、作りやすいもので製品化する。
- ・広報誌へのマンガ連載
→ 手書き原稿のため、いわてマンガ大賞の原稿が返ってきてから連載可能。
→ 話のまとまりから複数話で掲載したい。
→ キャラクター固定の問題が前提のため、連載は現在ある 16 本で終了予定にしたい。
（掲載を続けたい場合はキャラクターを変える）
- ・SNS 発信
→ 一日一回する場合、内容はどうか。
→ 内容を鑑みて、ブログで週一回にするか、Instagram で写真に重きを置く内容にするか。
- ・新しいパンフレットの作成
→ 現在のパンフレットに未確認生物ガタゴンの内容を追加する。
- ・ニコニコ町会議への参加の検討
→ 全国の夏祭りに便乗した、地域巻き込み型移動式文化祭。（去年は岩手町だった。）
→ 町おこしの手段となる。要応募で、必ず選ばれるわけではない。
- ・足跡やたまごなどのキャラクター固定がされないもので製品化。

○イベント企画「ガタゴンイラストコンテスト」の提案

押し付けになるようなガタゴンのキャラクター化を行わない代わりに、ガタゴンに対する関心度を高めるためにも「ガタゴンイラストコンテスト」を提案することにした。

（とりまとめ：小林香純）

目的：

山形町固有の「ガタゴン」を用いて山形町の活性化を図る。

平成 30 年度地域課題解決プログラム

内容：

「あなたが想像するガタゴン」を募集するイラストコンテスト。

足跡、タマゴから連想して「ガタゴン」がどのような生物なのかを想像する。

対象：

山形町民全体。はじめのうちは学校に協力を仰ぎ母数を増やすことが必要かもしれない。

審査：

1. 投票制

大勢の意見が反映／決定に時間がかかる

2. 審査制

偏った判断になりうる／比較的速やかに決定

不明点：

開催期間

グランプリ獲得による利益(賞金、賞品等)

歴代グランプリ作品の扱い

以上、ガタゴンイラストコンテスト提案しながらもまだ検討課題を含んだものである。実施に至るまでにはさらなる検討が必要となる。

○学生による個々の提案

学生グループの検討の過程において、個々の学生がそれぞれのアイデアを発表し合う機会もあった。今年度の活動においては明確な方向づけまでいかず、取り組むことはできなかったが、そこで出された提案のなかには今後の可能性として心に留めておくべきものもあったため、ここに紹介しておきたい。

まずは様々な商品企画である。ガタゴンのストラップ（キーホルダー）についてはすでに販売されているところであり、学生のデザインしたものはイラストコンテストの賞品としても考えることができるが、さらに、「ガタゴン×久慈琥珀」の組み合わせでの高級路線もデザイン次第では素晴らしいものになりそうである。また、顔出し看板、クッキーやアイスクリームなどの食品の提案もツーリズムとの連携で展開できそうなものである。(図5)



図5：学生による個々の提案（木田もゆる・吉野碧・寺田ゆりか）

平成 30 年度地域課題解決プログラム

また、ガタゴンを固定的にキャラクター化しない代わりに、「ガタゴンが産み落としたかもしれない何か」という設定で「がたごろー」(図 6) という新たなキャラクターを登場させるという、ガタゴンを間接的にアプローチする方法も提案された。(提案：太田代彩)

また、そのキャラクターを使って「がたごろーの冒険記」のような物語形式での展開も構想可能である。さらに SNS の活用においては、このキャラクターを使って地域情報を発信するという事も提案された。(図 7)

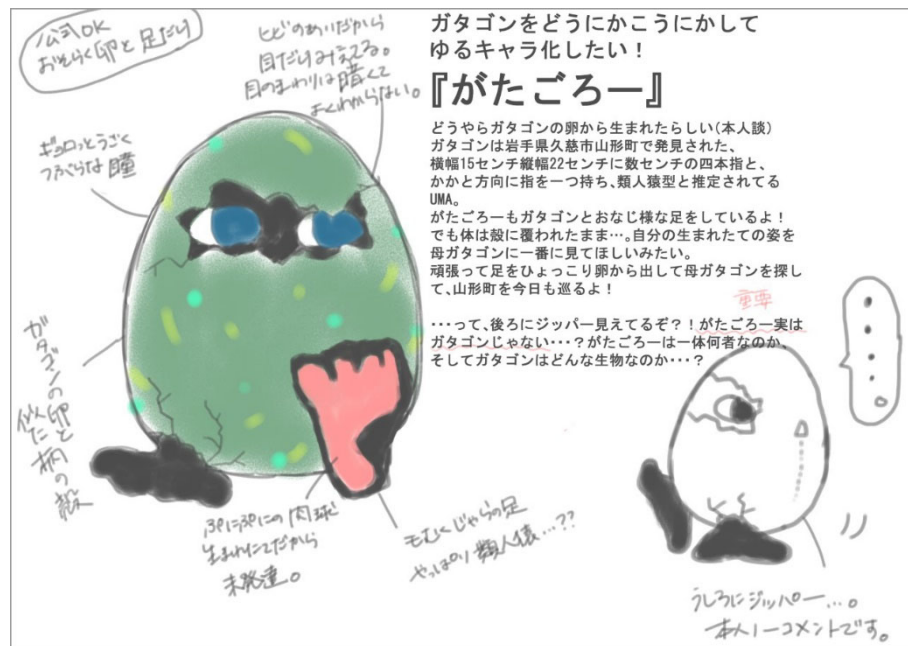


図 6：「がたごろー」のキャラクター化（太田代彩）



図 7：「がたごろー」を使った SNS での発信（太田代彩）

○「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018」での展示

COC+事業を推進するふるさといわて創造協議会（会長：岩渕明学長）では、学生が岩手県内の企業や行政、NPO 等との交流を通じて社会の在りようを学び、また、学生等が自らの研究や学びの成果を発信することにより、学生自らが生き方・働き方を主体的に考える学びの場となる交流イベント「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018」を 2018 年 12 月 15 日（土）に岩手産業文化センター（アピオ）アリーナにて開催することになった。

視覚文化（映像メディア）研究室（展示担当：小林香純、寺田ゆりか）は、学校関係のブース G-3 にて研究室活動を展示（写真 13）したが、ガタゴン関連についても掲示して、来場者への広報活動を行った。（会場への来場者数：大学生・高専生・短大生・専門学校生 910 名、出展者 610 名、一般 60 名、関係者 120 名、合計 1,700 名）



写真 13：「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2018」にて

○最後に

参加学生の感想：ガタゴンプロジェクトでは、「ガタゴンイラストコンテスト」を提案し、実際に形にするための調整や話し合いもさせていただいた。行動の遅さや連携不足などから形にするところまで進めることはできなかったが、来年度も継続して取り組みたいと考えている。ガタゴンまつりへの参加、神輿担ぎを通して、ガタゴンイラストコンテストはガタゴンまつりにどのように絡めることができるかといった部分や、どのようなスケジュールで行うべきかといった部分のイメージを固めていくことができた。

今年度の活動は提案に留まる場所も多かったが今後の展開に寄与できれば幸いである。

〔謝辞〕

本研究課題において、たいへんお世話になった岩手大学（三陸復興・地域創生推進機構 地域創生部門）共同研究員の大内田泰之さん、久慈市（山形総合支所 産業建設課）の谷地彰さん、志水彩子さん、古屋敷みゆきさんに感謝いたします。